

Shimane Human Sciences Research Vol.1

■ Prefatory Note Toshiki Murase

■ Articles

Relationships between the motivations in the sports club activities and
the psychological needs satisfaction in university students
..... Toshiki Murase 3

■ Practical Reports

Actual condition of bullying from body mapping
..... Takako Adachi 15

■ Articles (printed lengthwise)

La genèse de Durkheim comme un "chercheur en science des religion" : un rapport
provisoire sur la science des religions chez l'école de l'*Année sociologique*.
..... Makoto Yamazaki 一



2018. March

島根大学人間科学部
紀要
第1号

島根大学人間科学部 紀要 第1号

■ 巻頭言 村瀬 俊樹

■ 論文

大学生の運動系部活動における動機づけと心理的欲求の充足の関係
..... 村瀬 俊樹 3

■ 実践報告

ボディマッピングによって明らかにされた「いじめ」の実態
..... 足立 孝子 15

■ 論文 (縦組)

「宗教学者」デュルケームの生成——社会学年報学派の宗教学思想・中間考察
..... 山崎 亮 一



2018年3月

巻 頭 言

島根大学人間科学部長 村瀬 俊樹

現在の日本は、成長社会の時代を終え、高度の物質文明とは共存しつつも、生活の質や精神的な豊かさを重視した成熟社会の時代を迎えたと言われています。かつては、豊かさの指標として、GDPのような経済的指標が取り上げられていましたが、現在では、幸福感など人々がどの程度自分たちの生活に満足し、精神的な豊かさを感じているのかが取り上げられるようになってきました。

科学技術の発展は、私たちができることを拡大し、生活を便利にし、時間やコストの削減を可能にしてきました。しかし、格差の拡大や貧困、ワークライフバランスの改善が進まないこと、いじめやハラスメントなどの対人関係的な問題など、未解決のままの問題がたくさんあります。

このような時代背景の中、人間に焦点を当て、人間の視点から問題をとらえ、その解決を図ることが求められています。たとえば、人間にとって使いやすいかどうかという視点から科学技術のあり方を考えることや、人々が生きやすいかどうかという観点から働き方や社会制度のあり方を考えることが必要です。人間科学部は、このように、人々がその人らしく生きることができると目指し、その様々な問題を多角的に理解し、解決法を提案する学部として誕生しました。

それでは、人間科学とはどのような学問なのでしょう？

第1に、人間を心理的側面、身体的側面、社会的側面から総合してとらえるのが人間科学です。たとえば、幸福感とは、人が主観的に感じるものであり、人間の心理的側面ですが、幸福感には、身体的な健康、経済的な状況、社会制度、地域における住民のつながりなどのソーシャルキャピタルなども影響を与えています。また、人間の身体的な健康についても、ストレスや他者からの受容感などの心理的側面、経済的な状況、社会制度やソーシャルキャピタルなどが関連しています。そして、人々がどのように幸福や健康を考えるかということが、それをささえる社会のあり方にも反映されます。人間のこれら3つの側面のどこかに中心を置いた専門性を持ちつつも、それらを総合してとらえる学問が人間科学です。

第2に、実践的な知と科学的な知を往還させることが人間科学には必要です。私たち人間は、1

人1人が個性を持ち、独立した人格を持つ存在です。地域社会に生きる人々のかかえる問題を実践的に解決しようとする場合、その人および周りの人々や社会がどのような特徴を持ち、どのような関係にあるのかを共感的・客観的に理解することが必要です。そして、その人に対して自分がその人とどのような関係にあるのかを理解した上で、その人や周りの人々・社会へと働きかけを行う必要があります。つまり、地域社会に生きる人とその周辺を個別にかつ包括的に理解してその問題に対応していく実践的な知が必要です。

一方で、私たち人間にも、他の生物と同様、心理的側面にも身体的側面にも一般的な法則があります。個人差の大きい人間であれば、すべての人にすべての状況であてはまる法則を見つけるのは困難ですが、個人の特性や状況による変位を加味することで、個別の行動を説明することに役立つ一般的な法則をとらえることは可能です。そのような法則を量的・質的なエビデンスに基づいて論理的に明らかにしていく科学的な知も欠かすことができません。このように、実践的な知と科学的な知を車の両輪として働かせ、両者を往還させる複眼的思考に基づいて、地域社会に生きる人々の問題を理解して解決していくのが人間科学です。

島根大学人間科学部は、このように、人間を心理的・身体的・社会的側面から総合的にとらえること、実践的な知と科学的な知を往還させることを特徴とし、人々がその人らしく生きることができると社会の実現を目指して、研究・教育を行っています。島根には、過疎化や少子高齢化の進行など、他の地方と共有する先鋭的な問題が存在します。同時に、自然環境の豊かさや人間らしい生活を送ることを可能にする基盤もあります。私たちは、おもに島根とその周辺地域に生活する人々を対象とし、その抱える問題を中心として取り上げますが、それは他の地方で生活する人々はもちろん、大都市圏あるいは世界各地で生活する人々とも共通していることがたくさんあります。島根の地から全国・世界へ向けて私たちの得た知見を発信するのがこの研究紀要です。私たちの挑戦は始まったばかりです。私たちの研究・教育を見守っていただき、ご支援・ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

<執筆者紹介>

村 瀬 俊 樹 (発達心理学)
足 立 孝 子 (精神保健福祉論)
山 崎 亮 (福祉人間論・宗教学)

2018年3月印刷
2018年3月発行

発行者 島根大学人間科学部
〒690-8504 松江市西川津町1060
TEL (0852) 32-6334
研究推進・国際交流委員会
高橋哲也・川上直秋・杉崎千洋・辻本健彦
研究推進・国際交流委員会事務局
山下弘治・小山俊吾

印刷所 株式会社 報 光 社
〒691-0001 島根県出雲市平田町993